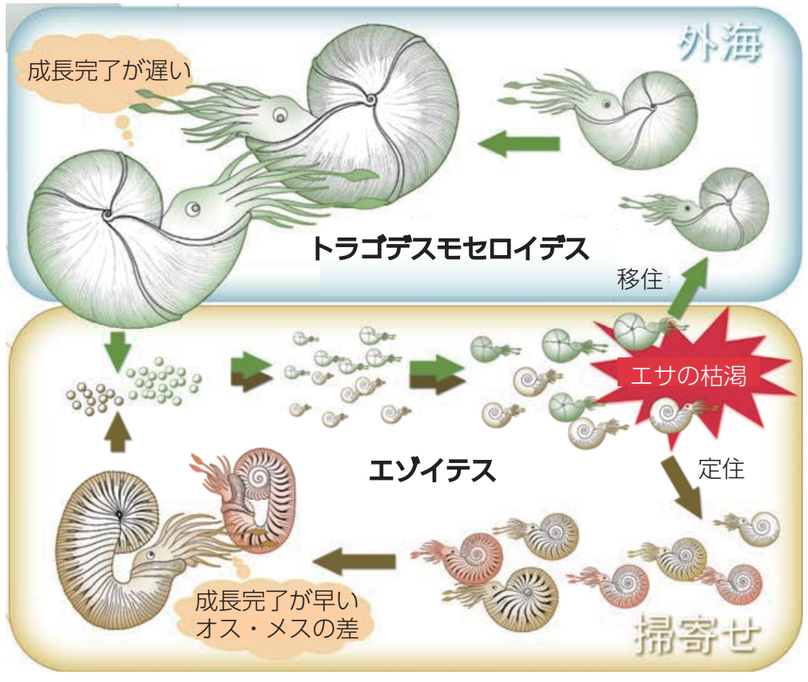
限られた食事を分け合う

エゾイテス

「9」の字型になる「スカフィテス類」のアンモナイトである「エゾイテス」は，1977 年にはミクロコンクとマクロコンクがある可能性が指摘され，2022 年には，どの形のミクロコンクとどの形のマクロコンクが同じ種類なのかがはっきり判明しました．しかしそもそもなぜエゾイテスは，オスとメスで姿が違うのでしょうか？ 2023 年に，コンピュータシミュレーションと，化石でのエゾイテスのオス・メスの比率や成長段階などを比較した研究が行われ，その理由の一部が明らかになりました．

元々，アンモナイトのエサがない場所に，たまたまエサが溜まった環境は，他のアンモナイトがいないため，エゾイテスが率先して住み着いたようです．しかし，エサはそこにある分しかありません．エゾイテスの体が大きすぎる場合，成長し終わる前に，エサを食い尽くして餓死してしまいます．しかし，成長が早くなるよう体を小さくすると，今度はメスが一度に産める卵の数が少なくなり，次の世代を増やせません（イカやタコと同じく，アンモナイトも生涯で 1 回しか産卵しなかったと思われます）．そこで，オスがメスより小さい，つまりメスより早く成長が完了すれば，エサを食い尽くさずに，十分な数の卵を産むことができます．エゾイテスは，限られた資源で繁殖するのに最適な姿だったようです．



エゾイテスと一緒に化石が見つかるトラゴデスモセロイデスは，エゾイテスよりも大きいため成長に時間がかかります．一時的にできたエサ場のエサを食い尽くすと，別の海域に移住したようです．しかしエゾイテスは，エサを食い尽くす前に十分な数の卵を産めるよう，オスとメスで成長完了の時期を変えたのです（洲濱・岡本，2023 を改変）．